

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491000160	事業の開始年月日	平成19年10月1日	
		指定年月日	平成19年10月1日	
法人名	株式会社 カスタムメディカル研究所			
事業所名	グループホーム 野の花			
所在地	( 245-0053 ) 神奈川県横浜市戸塚区上矢部町2115-6			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成21年10月21日	評価結果 市町村受理日	平成22年2月12日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://center.kaigo-kouhyou-kanagawa.jp/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の行事に参加し入居者様が地域社会の中で楽しむ事が出来る様、その人らしく過ごせる事を大切に開わりを持っている。又、個々の持つ力を引き出し地域と共に成長出来る事を目指している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会		
所在地	神奈川県横浜市神奈川区沢渡4-2		
訪問調査日	平成21年11月6日	評価機関 評価決定日	平成21年12月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

◆「いつまでも自分らしく、尊厳をもって暮らしたい」という事業所独自の理念のもと、本人の持つ力が引き出せるように、利用者それぞれに役割を担ってもらっている。  
 ◆職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、理念を意識して取り組んでいる。迷った時には常に理念に立ち返り、利用者の立場に立った支援かどうかを考えて、サービスを提供している。  
 ◆全職員で柔軟な対応、きめ細かな対応ができるように、ユニットで分けることはせずに、全職員が全利用者について情報を共有している。  
 ◆町内会に加入し、毎日の散歩の際にはゴミ袋を必ず持して、利用者職員で近隣のゴミ拾いを行っている。また、町内会の夏祭りや運動会等の行事に参加したり、事業所で行事を開催する際に、地域の住民にも参加してもらえるよう案内をするなど、地域との交流を図っている。  
 ◆地域の保育園児の訪問や中学生の体験学習の受け入れ、地域のボランティア団体との交流を積極的に行っており、利用者の楽しみとなっている。今後、行事の際に協力してもらおうボランティアを増やしたいと考えており、運営推進会議等で呼びかけて行きたいと考えている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム 野の花
ユニット名	コスモス

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

グループホーム 野の花

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、利用者一人一人の健康管理と安全な共同生活を送れる様に朝礼、ミーティング等で話し合い実践に繋がっている。	「いつまでも自分らしく尊厳を持って暮らしたい」という事業所独自の理念を、管理者、職員は、毎朝の朝礼や朝礼後に行うミニカンファレンス等で確認し、ケアに迷った時には常に理念に立ち返り、理念の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事（運動会や夏祭り等）へ参加させて頂いたり、散歩の時には声を掛け合って日常的に交流を図っている。	町内会に加入し、運動会や夏祭り等へ参加したり、毎日の散歩の際にはゴミ袋を必ず持参しゴミ拾いを行っている。また、近隣の住民が犬を連れ遊びに訪れたり、津軽三味線、女性コーラスグループ、手品、腹話術等のボランティアの受け入れを積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生のボランティア活動、体験学習の受け入れをしている。又、当ホームでのイベント開催時には地域の方々に参加して頂いて、認知症の人の理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回運営推進会議を開催して、地域ケアプラザや近隣の方、又ご家族との意見交換をし情報を得ながらサービスの向上に努めている。	運営推進会議を3カ月ごとに開催し、家族、町内会代表、地域包括支援センター職員等と意見交換を行っている。会議では利用者の状況、活動状況等を報告し、出席者より意見をもらっている。今後は、地域に対する話題を中心に話し合いを深め、日々のサービスの向上に活かしていく予定である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの職員との連携や区役所保護担当との連携を密にして、事業所の実情やサービスの取組みを積極的に伝えている。	市の職員とは、事業所の空き情報や生活保護受給の利用者の情報等のやり取りを密に取っている。	

グループホーム 野の花

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束をしないケアを実践している。玄関の施錠は夜間のみ行っているが、転倒事故防止のため夜間のみ足元にセンサーを使用してもらっている方がいる。	本社で開催の身体拘束に関する研修に職員が参加し、参加した職員が朝礼で発表して、職員間で共有している。また、「身体拘束ゼロへの手引き」を事業所に備え、全職員が身体拘束をしないケアを心がけている。玄関の施錠は夜間のみである。現在、転倒防止のために家族の了解の上で、止むを得ずフットコールを使用している利用者がいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で虐待について学び、言葉の暴力などのない様職員同士言動に注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利保護に関してまだ学びが少ないが、今後研修等で情報を得て、学びながら職員や家族と話し合い活用出来る様にして行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明をし理解、納得出来る様に図っている。改訂にあたっては、不安のない様話し合いを持ち了解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時等にご家族の要望を聞き、又日々のケアに於いて利用者の意見を聞き取りながら今後の運営に反映させている。	カンファレンスの内容や介護計画書等を家族に送付しており、その中に記入欄を設けて、家族に要望等を記入してもらえるようにしている。また、意見が入っていたことはないが、玄関に意見箱を設置している。利用者から食べたいものなどの要望等があった場合には外食に行くなど、利用者の要望等に応えている。	

グループホーム 野の花

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日、朝礼やミーティングで意見や提案を出し合い管理者とは話し合っている。	毎朝の朝礼とミニカンファレンスで職員から意見を出してもらい、全職員で検討してケアに反映させている。気づきノート(申し送りノート)を利用して、職員の意見を日常的に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境の整備に努めている。個々の努力や実績を把握して、モチベーションが下がらない様に職場環境や労働条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人的に研修を受けているが、法人内での統一した研修をしてスキルアップしていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県や市のグループホーム連絡会に入り、ネットワーク作りに参加している。又、職員は交換研修をしてサービスの向上を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始にあたっては、本人の要望を十分に聞き取り不安のない様に務めている。スタッフはカンファレンスを行い、毎朝のミーティングで話し合いをして安全確保に努めている。		

グループホーム 野の花

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期アセスメントで聞き取りを充分に行い、ご家族の要望を聞き不安のない様に関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活歴や身心の状況をよく把握して最優先のサービスが何かを見極め、マッサージ等他のサービスの利用も考えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の持っている力を引き出せる様に、一緒に洗濯物を畳んで頂いたり、談笑しながら共に暮らしているという意識を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベントの時にはご家族にも呼びかけ、ご家族と一緒に楽しんで頂き共に本人を支えて行く様にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人を取りまく人間関係を把握し、電話連絡等で関係が途切れない様な支援に努めている。	アセスメントで利用者各人の馴染みの人や場所を把握し、利用者の友人などが訪問しやすい雰囲気作りに努めている。本人が以前住んでいた地域の馴染みの人たちが月に1度訪問してくれることがあり、事業所では電話で関係が途切れないよう支援している。	

グループホーム 野の花

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに交流できる様に、職員が間に入り関係作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	老人ホーム入られた方には、どうしているかご家族やホームに電話を入れ、今までの関係性を大切にしている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人としっかり向き合って話を聴き何を望んでいるか、どうして欲しいかを把握して、希望に添える様にする。	利用者の思いや意向の把握については、「センター方式」の様式を用いて、職員との会話内容も記録することにより、利用者の要望を把握しやすいよう工夫をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを充分にとって生活歴の把握に努め、今までと同じ様に生活出来る様な支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の持っている力が引き出せる様に、心身の状態を見極めて有意義な一日が過ごせる様に努めている。		

グループホーム 野の花

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	記録を取りながら、毎日のミーティングや3ヶ月毎のカンファレンスにより、職員同士意見を出し合い介護計画を作成している。	毎朝の朝礼後に行うミニカンファレンスや3ヶ月ごとに開催するカンファレンスで職員が意見を出し合い、介護計画を作成している。介護計画の目標は「継続」・「終了」と方向を明確にさせ、3ヶ月ごとに見直しを行っている。話し合いはユニットごとではなく、事業所全体で行い、全利用者の状態を全職員で把握している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体状況が低下した時は、看護師と連絡を取りながら個別記録に記入し介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来るだけ個々の希望に添える様、ご家族とも相談しながら柔軟な支援が出来る様になっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園児との交流や中学生の体験学習、その他ボランティアさんを通して生活を楽しめる様支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族のかかりつけ医の受診は大切にしている。ホームでは、24時間対応の医師との連携を取りながら、適切な医療を受けられる様に支援している。	これまでのかかりつけ医での受診ができ、受診の際は家族が付き添い、受診結果を家族から聞き記録している。また、協力医療機関による内科、歯科、精神科の定期的な往診があり、受診の記録を行っている。	



グループホーム 野の花

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の少しの変化でも気付いたらすぐに看護師に連絡できる体制になってる。看護師は医師と連携し、適切な指示が得られる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際主治医、ご家族、病院の関係者と話し合い、法人の病院からも協力を得て情報交換をしている。常に連絡が取り合える様な関係作りを心がけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	24時間体制の医療連携はとっているが、ホームでの終末期ケアは行っていない。地域との連携は取り組んでいないが、ご家族の意向を伺ってホーム内で出来る限りの支援を行っている。	本社で開催の「看取りについて」の研修に管理者が参加し、ミーティング等を通して、職員間でも共有を図っている。今後、重度化が見込まれる利用者については、カンファレンスで話し合いを持っており、職員はできるだけ最後まで支援したいとの思いを持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生に備えてマニュアルを目の付く所に掲示している。初期対応については、今後も定期的に訓練して行く。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した避難訓練も行っている。災害時には地域の方との協力も得られる様にしている。	緊急時の対応を事務所内に掲示するとともに、全職員に周知している。夜間を想定した避難訓練を全職員で行っている。火災防止のためのチェック表、自主点検表を備え、点検確認実施の記録を義務づけている。食料・水を備蓄している。また、運営推進会議を通して、地域の避難訓練や地域の避難場所などの情報を共有している。	

グループホーム 野の花

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他の入居者や人前で本人を傷付けない様に言葉かけに配慮し、本人の人格を尊重し、誇りや個人のプライバシーを損なわない様な話しかけや対応に気を付けている。	入職時に管理者より理念について説明するとともに、毎朝の朝礼や朝礼後に行うミニカンファレンス等で、個人を尊重したケアの実践について確認し、利用者を人生の先輩として対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者、ご家族を交え話し合いを持って、本人の希望に合う様に耳を傾け自己決定出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでは、入居者の方が常に主人公であり、個々のペースに合わせて尊重し、その人の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに注意して、清潔な衣類で過ごして頂く様に支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	刻み食が多いので、目で見て楽しんで頂ける様に盛り付けなどを工夫している。	週2回の食材の買い出しや、配膳の手伝い、テーブルふきなど、できる範囲で利用者にも行ってもらっている。訪問調査時の昼食で、利用者が食器洗いを行っている姿が見受けられた。誕生日会には利用者の好みを尊重してメニューを決めている。	

グループホーム 野の花

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量、水分摂取量は毎日チェック表に記入し過不足のない様につけています。又刻み食、トロミ付け等で対応し個々の状態に合わせた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをして頂いている。個人により歯科医師の指導のもと歯間ブラシを使用し、職員はみがき残しがない様に介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各個人の排泄リズムを把握して、サインを読み取りトイレ誘導している。なるべくオムツに頼らない様に自立支援している。	排泄のリズムを利用者ごとに記録して、各利用者のリズムに合わせて支援している。夜中も安易にリハビリパンツにせず巡回の時に声をかけるなど、なるべくトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握と牛乳やプルーン、ヨーグルト等を提供して便秘予防に取り組んでいる。困難な時は医師や看護師と相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の体調を考え、希望に合わせて入浴出来る様に支援している。シャワー浴も取り入れ、いつでも自由に入浴出来る様に支援している。	基本的には週3回の入浴としているが、希望のある時にはできるだけ希望にそうようにしている。また、必要に応じてシャワー、足浴等を実施している。	

グループホーム 野の花

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個人のリズムに合わせて、いつでも安眠、良眠出来る様に室温に気を付けて寝具の調整等も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は、職員全員が理解出来る様申し送りノートに記入している。症状の変化時は医師、看護師に相談し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割分担を持って日常生活が充実出来る様に支援している。又、天気の良い日は近くの公園へ散歩に行き、気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に添って1：1のでの外出も出来る様に支援している。遠出をする時には、車椅子を利用している方も安全に外出出来る様に支援している。	利用者一人ひとりの希望にそって外出の支援を行っている。また、お花見や初詣など季節に合わせた外出も様々に行っている。遠方への遠足も年2回行っており、車椅子使用の利用者も安全に楽しく参加できるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近隣のお祭りやショッピングに外出される時は、ご自分の財布を持って頂き自由に買い物して頂いている。		

グループホーム 野の花

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望された時はいつでも自由に電話を掛けて頂き、はがきは常に用意しており書けない方には代筆して支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔感を保ち、温度調節に配慮している。玄関やリビングには、四季折々の花を飾って居心地良く過ごせる様に工夫している。	玄関やリビングには季節の花などを飾り、温度調節にも配慮して、居心地の良い空間を確保している。訪問調査時には、日の当たる清潔なリビングで、利用者はゆったりと過ごしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き新聞を読まれたり、テレビを観ながら入居者同士でお茶を飲み談話を楽しまれている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には生活をそのまま移し、馴染みの物を持って来て頂いて居心地良く過ごせる様に工夫している。	使い慣れたタンス、仏壇、家族の写真など、馴染みのものを居室に持ち込んでもらい、本人が居心地よく過ごせるように工夫している	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングのモップ掛け、テーブル拭き、下膳等出来る所はなるべくして頂き、持っている力を引き出すような支援をしている。		

事業所名	グループホーム 野の花
ユニット名	マーガレット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

グループホーム 野の花

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、利用者一人一人の健康管理と安全な共同生活を送れる様に朝礼、ミーティング等で話し合い実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事（運動会や夏祭り等）へ参加させて頂いたり、散歩の時には声を掛け合って日常的に交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生のボランティア活動、体験学習の受け入れをしている。又、当ホームでのイベント開催時には地域の方々に参加して頂いて、認知症の人の理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回運営推進会議を開催して、地域ケアプラザや近隣の方、又ご家族との意見交換をし情報を得ながらサービスの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの職員との連携や区役所保護担当との連携を密にして、事業所の実情やサービスの取組みを積極的に伝えている。		

グループホーム 野の花

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束をしないケアを実践している。玄関の施錠は夜間のみ行っているが、転倒事故防止のため夜間のみ足元にセンサーを使用してもらっている方がいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で虐待について学び、言葉の暴力などのない様職員同士言動に注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利保護に関してまだ学びが少ないが、今後研修等で情報を得て、学びながら職員や家族と話し合い活用出来る様にして行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明をし理解、納得出来る様に図っている。改訂にあたっては、不安のない様話し合いを持ち了解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時等にご家族の要望を聞き、又日々のケアに於いて利用者の意見を聞き取りながら今後の運営に反映させている。		



グループホーム 野の花

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日、朝礼やミーティングで意見や提案を出し合い管理者とは話し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境の整備に努めている。個々の努力や実績を把握して、モチベーションが下がらない様に職場環境や労働条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人的に研修を受けているが、法人内での統一した研修をしてスキルアップしていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県や市のグループホーム連絡会に入り、ネットワーク作りに参加している。又、職員は交換研修をしてサービスの向上を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始にあたっては、本人の要望を十分に聞き取り不安のない様に務めている。スタッフはカンファレンスを行い、毎朝のミーティングで話し合いをして安全確保に努めている。		

グループホーム 野の花

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期アセスメントで聞き取りを充分に行い、ご家族の要望を聞き不安のない様に関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活歴や身心の状況をよく把握して最優先のサービスが何かを見極め、マッサージ等他のサービスの利用も考えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の持っている力を引き出せる様に、一緒に洗濯物を畳んで頂いたり、布団干し、掃除等をして参加意識を高めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベントの時にはご家族にも呼びかけ、ご家族と一緒に楽しんで頂き共に本人を支えて行く様にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しい友人達が来所し易い様な雰囲気作りをし、電話連絡等で関係が途切れない様な支援に努めている。		

グループホーム 野の花

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない様に職員と一緒に話し合い、レクリエーションを通してお互いに関り合える様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	老人ホーム入られた方には、どうしているかご家族やホームに電話を入れ、今までの関係性を大切にしている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人としっかり向き合って話を聴き何を望んでいるか、どうして欲しいかを把握して、希望に添える様にする。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを充分にとって生活歴の把握に努め、今までと同じ様に生活出来る様な支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の持っている力が引き出せる様に、心身の状態を見極めて有意義な一日が過ごせる様に努めている。		

グループホーム 野の花

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	記録を取りながら、毎日のミーティングや3ヶ月毎のカンファレンスにより、職員同士意見を出し合い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や申し送りノートに記入し、職員間で情報を共有し、実践や介護計画見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来るだけ個々の希望に添える様、ご家族とも相談しながら柔軟な支援が出来る様になっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園児との交流や中学生の体験学習、その他ボランティアさんを通して生活を楽しめる様支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族のかかりつけ医の受診は大切にしている。ホームでは、24時間対応の医師との連携を取りながら、適切な医療を受けられる様に支援している。		

グループホーム 野の花

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の少しの変化でも気付いたらすぐに看護師に連絡できる体制になってる。看護師は医師と連携し、適切な指示が得られる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際主治医、ご家族、病院の関係者と話し合い、法人の病院からも協力を得て情報交換をしている。常に連絡が取り合える様な関係作りを心がけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	24時間体制の医療連携はとっているが、ホームでの終末期ケアは行っていない。地域との連携は取り組んでいないが、ご家族の意向を伺ってホーム内での出来る限りの支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生に備えてマニュアルを目の付く所に掲示している。初期対応については、今後も定期的に訓練して行く。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した避難訓練も行っている。災害時には地域の方との協力も得られる様にしている。		

グループホーム 野の花

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他の入居者や人前で本人を傷付けない様に言葉かけに配慮し、本人の人格を尊重し、誇りや個人のプライバシーを損なわない様な話しかけや対応に気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者、ご家族を交え話し合いを持って、本人の希望に合う様に耳を傾け自己決定出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでは、入居者の方が常に主人公であり、個々のペースに合わせて尊重し、その人の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせて衣服やおしゃれ、身だしなみに注意して毎月理美容の方に訪問して頂き、職員と共に服装を選ぶ事もあります。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のリクエストに応じてメニューを決めて食事の準備をして頂いたり、職員と一緒に食事、片付けを楽しんで頂いています。		

グループホーム 野の花

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量、水分摂取量は毎日チェック表に記入し過不足のない様につけていく。又刻み食、トロミ付け等で対応し個々の状態に合わせた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをして頂いている。個人により歯科医師の指導のもと歯間ブラシを使用し、職員はみがき残しがない様に介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各個人の排泄リズムを把握して、サインを読み取りトイレ誘導している。各個人によってはポータブルトイレを利用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握と牛乳やプルーン、ヨーグルト等を提供して便秘予防に取り組んでいる。困難な時は医師や看護師と相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の体調を考え、希望に合わせて入浴出来る様に支援している。シャワー浴も取り入れ、いつでも自由に入浴出来る様に支援している。		

グループホーム 野の花

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個人のリズムに合わせて、いつでも安眠、良眠出来る様に室温に気を付けて寝具の調整等も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は、職員全員が理解出来る様に申し送りノートに記入している。症状の変化時は医師、看護師に相談し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割分担を持って日常生活が充実出来る様に支援している。又、天気の良い日は近くの公園へ散歩に行き、気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に添って1：1のでの外出も出来る様に支援している。遠出をする時には、車椅子を利用している方も安全に外出出来る様に支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近隣のお祭りやショッピングに外出される時は、ご自分の財布を持って頂き自由に買い物して頂いている。		



グループホーム 野の花

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望された時はいつでも自由に電話を掛けて頂き、はがきは常に用意しており書けない方には代筆して支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔感を保ち、温度調節に配慮している。玄関やリビングには、四季折々の花を飾って居心地良く過ごせる様に工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き新聞を読まれたり、テレビを観ながら入居者同士でお茶を飲み談話を楽しんでいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には生活をそのまま移し、馴染みの物を持って来て頂いて居心地良く過ごせる様に工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夫々居室内の掃除、モップ掛け、整理整頓、洗濯物畳み、下膳等出来る事はなるべくして頂いて、自立した生活が送れる様に工夫している。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名

グループホーム野の花

作成日

平成22年2月8日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域との交流をもっと深めていきたい。	町内会の行事に参加するだけでなく、ホームの行事にも地域の方に参加して頂く。	クリスマス会などの大きなイベントには、近隣の方にも気軽に参加して頂ける様に工夫する。	1年
2	5・7	職員研修の充実と職場環境の整備に努める。	職場内・外の研修や交換研修を通して職員のスキルアップに努め、さらに処遇改善につなげる。	自主的に研修に参加できる様に、事業所でフォローする。	1年
3	9	一人一人の思いをしっかり受け止めて、尊厳を保持できる様に支援する。	認知症を理解し、本人の心に寄り添っていける様にする。主体は本人である事を理解する。	生活歴や生活環境を把握し、持っている力を引き出せる様な支援に努める。	1年
4	12	重度化した時や終末期のあり方等の方針を決めて支援に取り組みたい。	ご家族の意向を汲み入れ主治医や看護師との連携を密にして、看取りについて研修する。	主治医や看護師とホームのスタッフが共に看取りについて研修し、終末期ケアに取り組む。	1年
5	18	季節の行事での外出の他、もう少しのんびりした散歩等を取り入れたい。	広々した公園で日光浴したり、子供達と遊んだりしたい。	中学生の福祉体験をホーム外で行えないか検討する。	1年

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。